

2016年(平成28年)

2月5日(金)

第18916号  
Since 1936

品質で選べば

# 明日フェース

明日スチール工業株式会社

本社 茨城県花巻市町目2番29号 TEL. 087-833-5151  
支社 東京都千代田区千代田5-15-7 支店 大阪 624-1910・福岡 471-7621  
営業所 名古屋 932-3900・仙台 283-1790

# 産業新聞

Japan Metal Bulletin



将来的な輸出競争力の強化を目指す

## 扶和メタル

# 大型船での輸出に着手

## 鉄スクラップ 関東で計4万トン

扶和メタル(本社〓大阪市、黒川友二社長)は関東海岸で初めて、2万トンの積載が可能な大型船による鉄スクラップ輸出に着手した。国内からの鉄スクラップ輸出は韓国など近隣国向けで20000-50000ト、ベトナムなど東南アジア向けは50000-1万トが主流で、関東海岸では最大1万トの船積みが行われているが、同社ではバン格拉デシユ、ベトナム向けにそれぞれ2万ト、計4万トの大型船による輸出を実施。今後、競争が激化するとみられる鉄スクラップ輸出市場を見据えたトライアル(黒川社長)により、将来的な輸出競争力の強化を目指す。

同社では1月末から始めた。輸出契約は1千葉港船橋中央埠頭で、バン格拉デシユ向けに2万トの鉄スクラップ輸出の船積みを開

同社では「さまざま

なグレードの鉄スクラップを輸出することに、新規販売先の品質要求や検収などを見極め、輸出先に応じた品質を研究していく(同)としており、また、輸出先の荷揚げ能力や近隣諸国向けにおいても「2万トクラスの大型船舶による輸出のメリット、デメリットを追求して、より最適で競争力のある多角的な輸出手段を見いだしていく(同)という。輸出向けの鉄スクラップについては自社鉄スクラップで対応しているほか、昨年6月に鉄スクラップ事業で業務提携を締結した共栄、シマフンコーポレーションから一部供給を受ける。バン格拉デシユ向け完了後には、ベトナム向けの2万トの船積みも開始する。アジア圏での鉄スクラップ輸出市場では小ロットが中心の日本、3万ト以上の積載が可能なティープ・シーと呼ばれる大型ワンゴ船を主力とする米国が競合。

また、需要が拡大傾向にあるベトナム向けを中心とした東南アジア向け、さらにインド方面などより遠方への販路拡大へ向けて、日本がメインとする5000トまでの輸出に比

べてトン当たり海上運賃が安い大型船舶化が求められてきた。さらに主力輸出先の一つ、韓国向けはこれまで1船当たり2000-3000トの船積み

がメインだったが、「荷揚げ時は米国ティープ・シーが優先されるなど、日本からの小ロット・短納期輸出が必ずしもメリットがあるわけではない(同)などの問題も生じているほか、中国が鉄スク

ラップ輸出に転じた際の輸出競争力確保など、主要輸出国の日本における課題は多い。特に大型船に対応するための船積み能力に関する港湾インフラや船積み時の規制など、「鉄スクラップ輸出競争力強化へ向けた障壁は依然として高い(同)」という。今回の大型船による輸出でも船積み用重機の荷役能力不足のほか、輸出岸壁に鉄スクラップを降ろせず、トラックから直接積み込む必要等もあり、船積み期間は20日間ほどが見込まれている。

同社では大型船舶での輸出トライアルを通じて、鉄スクラップの売り手と買い手、ステベ(荷役業者)、港当局などそれぞれが抱える課題を明確化していき、

自社だけではなく、業界全体の輸出競争力強化にもつながっていく(同)としており、大型船による日本の輸出新時代の幕開けとなるか、今後の動向に注目が集まる。